

# 精神科診断別の心理面接とセルフケアの基礎 I



## WORKSHOP

## 集中演習

**講師：能 幸夫**

(心理療法家 資格：臨床心理士・公認心理士・精神保健福祉士)

精神科、心療内科のクリニックあるいは精神病院で臨床を始めると、例えば、医師から「この人、診断的には適応反応症なんだけど、カウンセリングをお願いします」とか、「診断的には不安症の範囲でいいと思うんだけど、その患者さんが心理療法を希望しているんだけど…」というような依頼がきます。

精神保健福祉士にも、「抑うつ範囲で考えているんだけど、どんなふうに社会復帰できるか、一緒に考えてみてくれる」とか、「統合失調症で、今は、症状は落ち着いたから、次のステップとして作業所とかはどうかな」と言われたりもします。

また、学生相談で、あるいはスクールカウンセリングで担当しているケースが医療機関にかかって、精神科診断をもらってきます。児童相談所、教育研究所、適応指導教室などでも、同じようなことは日常的に起きています。

心理面接あるいはソーシャルワーカーによる専門相談をしていく際には精神科診断ごとに、それぞれの目の付け所があります。その目の付け所を理解しながら、心理面接を組み立てていく基礎技法を学んでいくことが、本ワークショップの狙いです。

**受講料：各回17,000円（税込）全4回61,200（税込）\*1割引**

PAS心理教育研究所

☎ 03-6407-8201

東京都目黒区駒場2-8-9

WEBサイト：[www.pas-ins.com](http://www.pas-ins.com)

受付時間：月-木14:00-18:00 金16:00-18:00

# 2025年度ワークショップのご案内

2025年度の心理面接とセルフケアの基礎Ⅰでは、精神科医からの医学的診断をもらっている患者/クライアントの心理面接およびセルフケアを展開していくために、PAS理論の欲動展開図式の理解と合わせて、基本的な病理とその対応を学ぶことを目的とします。欲動展開図式には、心的装置の基本要素がすべて含まれています。欲動展開図式を理解していくことは、心理職のみならず、ソーシャルワーカー、看護師などの対人援助職にとって意味ある学びとなります。この欲動展開図式がどのように実際の臨床で生かされるかを、診断別に検討していきます。

## 各回のテーマ

**第1回 2025/5/11 (日)：欲動展開図式の基礎／適応反応症の理解；外的ストレスと内的葛藤**

◇テーマ：「欲動展開図式の理解」「適応・不適応とは」「内的適応不全という考え方」

欲動展開図式は、フロイト,S.の心的装置に基づいて、人格機能と合わせて、PAS理論によって再構成された図式です。まずは、年度を通じて問題の理解の基軸に置く欲動展開図式を理解してみましょう。

適応反応症は、外的ストレスによって生じる精神的不調を意味します。適応反応症における適応とは何か、適応反応症によって誘発される内的葛藤とともにその臨床的な対応を学んでいきます。

**第2回 2025/8/17(日)：不安症の理解；欲動エネルギーと不安のヒエラルキー**

◇テーマ：「不安の基本力動」「欲動エネルギーと不安」「不安のヒエラルキーについて」

不安は、危険が迫る信号として役に立ちますが、同時に処理されずに高まると外傷的なパニックにまで至ります。不安が生じる基本力動を押さえ、現実不安と神経症不安の区別を学んでみましょう。

不安には、精神症的な自己の崩壊不安、パーソナリティ症における見捨てられ不安、神経症における去勢不安など、発達に応じたヒエラルキーがあります。それぞれの不安の特徴をつかみ、神経症性の不安が高じるパニック症の対応を理解していきましょう。

**第3回 2025/11/16(日)：「幻覚・妄想の基本力動」「統合失調症の過敏性」「セルフケアの基礎」**

◇テーマ：「幻覚・妄想の基本力動」「統合失調症の過敏性」「セルフケアの基礎」

統合失調症の幻覚、妄想といった症状は、奇異ではありますが、精神分析的には意味があります。病理の前提には体質的脆弱性としての過剰な過敏性が想定されています。

統合失調症を過敏性の観点から理解を深め、統合失調症患者に対するセルフケアのコツをつかんでみましょう。  
\*精神保健福祉士、ソーシャルワーカー、看護師はセルフケアの基礎を理解できます。

**第4回 2026/1/18(日)：「抑うつと喪失」「超自我と罪悪感の力動」「攻撃性の内攻について」**

◇テーマ：「抑うつと喪失」「超自我と罪悪感の力動」「攻撃性の内攻について」

抑うつは、重要な対象の喪失によって引き起こされるものとされ、そこには失った対象に注いでいたエネルギーをそのまま持っていかれることで、自己が貧困化するというのがフロイトのうつ病理解でした。

抑うつの力動に深く関与するのが超自我と罪悪感の問題です。そしてそこには自尊心の低下が生じます。また、この力動の結果、孤立した自己に、自分の攻撃性を向けてしまうことで、の悪循環は生じます。その力動の理解に基づいて、抑うつへの対応を考えていきます。

**対象** 初任から中堅までの公認心理師、臨床心理士、PASセラピスト、ソーシャルワーカー、精神科医、精神看護師、CNS、スクールカウンセラー、学生相談カウンセラーの現任者（特に初任者は歓迎します）

**申込方法** 申込用紙に必要事項をご記入の上、メール・FAXまたは郵送にて研究所までお送り下さい。